

所 信 表 明

令和6年10月

宜野湾市長 佐喜眞 淳

議長のお許しを得て、議案の上程説明に先立ち、市長就任のあいさつと、市政に対する私の所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜わりたく存じます。

まず、去る7月26日に松川正則前市長がご逝去されましたことに深く哀悼の意を表します。松川前市長は、私が一期目、二期目に市長に就任した際、副市長として支えていただいた盟友です。また、私の後を継いで市長に就任し、二期5年10か月にわたり「宜野湾がいちばん」の精神のもと、市民の皆様の暮らしを一番に考えた市政運営を行ってこられました。

議員の皆様にとっても、行政運営だけでなく議会運営のスペシャリストである松川前市長は、政治家としての良き模範であり信頼できる相談相手だったことと思います。

松川前市長を失ったことによる損失は、決して埋められるものではありませんが、それでも私たちは、市民の皆様のため未来に向かって歩いていかなくてはなりません。

このような中、去る9月8日に行われました市長選挙で私は、「松川市政継承 想いをひとつに 宜野湾がいちばん」を掲げ、市民の負託を得て当選を果たし、第20代宜野湾市長として、再び市

政運営を担わせていただくこととなりました。

市長選挙では、「松川市政継承 6つのビジョン」として、「暮らしがいちばん」、「健康がいちばん」、「地域力がいちばん」、「基地のない平和がいちばん」、「夢のある明日がいちばん」という松川市政の5つのビジョンに、私の重視する「こどもの未来がいちばん」のビジョンを加え、訴えてまいりました。

その結果としまして、市民の皆様のご支持とご理解のもと、市長という重責を再び務めさせていただくこととなり、身の引き締まる思いです。

この結果は、市民の皆様がこれまでの松川市政の実績を高く評価し、それを継承し発展させていくことに期待を込めているものと受け止めております。これが、私に与えていただいた使命であり、その責任の重さを実感しております。

松川市政の間、本市の最大の懸案事項である普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還、速やかな運用停止については、本年1月10日の普天間飛行場代替施設の建設再開により、大きな前進を見せました。猛威をふるった新型コロナウイルス感染症も5類感染症へ移行し、社会経済の正常化が進む中、本市においても「は

ごろも祭り」などの行事の再開をはじめ、平常時の行政活動に戻りつつあります。

一方で、本市においても少子高齢化は進み、令和 17 年頃には人口減少の局面に入ることが予測されることに加え、激甚化・頻発化する自然災害への対応など、新たな行政課題に対し、限られた行政資源で対応していかなければなりません。

今後の4年間につきましては、これまで松川市政で取り組んでこられた様々な政策を前進させていくことはもちろんのこと、新たな行政課題に対しても迅速かつ的確に対応し、すべての市民が笑顔で幸せを感じ、「宜野湾がいちばん」と言っていただけるよう、市職員とともに、議員各位並びに市民の皆様の御力添えを賜りながら全力で取り組んでまいります。

それでは、私が市長選挙で公約としてお示した「宜野湾がいちばん！」との強い思いで取り組む6つのビジョンについて、申し上げます。

はじめに、「暮らしがいちばん」でございます。

まず、交通渋滞緩和政策の強力な推進です。

国道58号宜野湾バイパス高架道路については、早期の実現

に向け、令和7年度に新規事業着手するよう国に強く要請します。

喜友名から真志喜へ抜ける県道の建設推進を図ります。

市道宜野湾11号と国道330号を結ぶ、はしご状の市道整備を推進します。

真栄原から大謝名までの渋滞の激しい県道34号の渋滞緩和策を県に強く要請します。

琉球大学医学部及び同大学病院の移設に伴い交通量の増加が想定される西普天間住宅地区周辺については、関係機関と連携して渋滞対策に取り組めます。

産業支援センターの建設については、商工会と連携し取り組むとともに、高度情報通信機能を備えた、情報通信産業振興施設の建設に取り組めます。

高齢者などの交通弱者への交通の利便性を増進するため、コミュニティバスなどの新たな交通手段を検討してまいります。

循環型社会の構築を目指し、本市においても電気自動車の購入に係る補助事業等を検討してまいります。

琉球大学との覚書に基づき、琉球大学病院駐車場の市民利用について協議を進めます。

激甚化・頻発化する自然災害に備え、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

有機フッ素化合物(^{ピーファス}PFAS)の水環境等における基準値等の設定や除去技術の調査研究及び対策技術等の確立を国に強く求め、市民の安全・安心を確保します。

火葬場については、他市町村と協力した広域的な建設も視野に、早期建設に向け取り組んでまいります。

続きまして「健康がいちばん」でございます。

西普天間住宅地区において、来年1月に琉球大学病院が開院、また4月に同大学医学部が開学します。国の基地跡地利用の先行モデルとして、沖縄健康医療拠点に関する取り組みを推進するとともに、健康都市宣言にふさわしい市民の健康増進事業を展開します。

高齢者のフレイル対策を強力に推進するとともに、ミニデイサービス等への支援を強化し、高齢者の生きがいづくりを応援します。また、高齢者の道迷い防止のため、見守り自動販売機等を増設します。

障がい者就労支援などの障がい者施策を推進してまいります。

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、相談を「断らない」包括的な支援体制を整備してまいります。

こうした取り組みを通じ、全ての市民が身体的、精神的、社会的に健康で幸福を感じられるウェルビーイングなまちづくりを行ってまいります。

また、琉球大学病院とも連携し、救急体制を強化し、市民の生命を守る取り組みを推進します。

続きまして、「こどもの未来がいちばん」でございます。

まず、こども政策を強力に推進するため、市役所にこども施策を総合的に担う部を設置し、体制面の充実を図ります。

こどもたちが身体的、精神的、社会的に将来にわたって幸せな状態、ウェルビーイングの実現に向け、教育、保健医療、福祉等の分野横断的な学術的研究と研究拠点の設置に向けた検討について、国と琉球大学と連携して取り組みます。

こどもの貧困対策に関しましては、学習支援、生活支援等を通して取り組みを強化してまいります。また、ヤングケアラーや医療的ケア児への支援の仕組みを検討してまいります。

私が市長時代から始めた小学校給食費半額助成について、引

引き続き取り組むとともに、沖縄県における学校給食費無償化に向けた取り組み状況を注視しつつ、市立小中学校の完全無償化に向け努めます。

児童館が未設置の小学校区においては、児童館設置にむけて取り組んでまいります。

現在、中学生までの通院費及び入院費について、現物給付の対象を18歳まで引き上げ、完全無料化を目指します。

国家資格等を受験したくとも受験料が高くて受けられないこどもたちのため、受験料支援事業の創設を検討し、こどもの夢を後押しします。

国際社会で活躍できる人材育成のため国の^{トーフ}TOFUプログラムへの派遣や日米交流事業(^{シード}SEED)への参加を推進するとともに、こどもの語学力育成のため、英語指導助手配置等に引き続き取り組みます。

待機児童問題の解消に向け、保育士確保に取り組むとともに、待機児童の多い1歳児、2歳児の受け皿増設など子育て環境整備を推進してまいります。

続きまして、「地域力がいちばん」でございます。

自治会、青年会、女性会、老人会、通り会等の地域組織の活性化を図り、市民力を高め、市民が主役のまちづくりを実践してまいります。

国の高率補助を活用し、老朽化した地区公民館の改築や公園の整備、市道の整備等により地域環境の充実に取り組みます。

防災訓練や防災に関する研修をとおり、地域防災組織の災害対応力を強化してまいります。

続きまして「基地のない平和がいちばん」でございます。

普天間飛行場は戦後 79 年、沖縄が日本に復帰してから 52 年、日米両政府による全面返還合意から 28 年経過してもなお返還されず、この間、宜野湾市民は過重な基地負担を強いられてきています。

また、普天間飛行場が本市のど真ん中にあることで、本市の効率的なまちづくりを進めるうえでの阻害要因となっているだけでなく、沖縄本島における交通、流通を阻害し、沖縄の発展を阻害してもおります。裏を返せば、普天間飛行場の跡地は、沖縄振興はもとより、日本経済をけん引する可能性を秘めている地域であるとも言えます。

市民の願いは一つであり、普天間飛行場の固定化を許さず1日も早い閉鎖、返還とすみやかな運用停止を実現することです。私は、これを勝ち取るため、国に対してあらゆる方策を講じて求めてまいります。まずは、返還期日の早期確定と返還までの間の危険性除去と目に見える形での負担軽減を求めてまいります。具体的な方策として、普天間飛行場代替施設建設の進捗状況に合わせた普天間飛行場所属機の段階的移駐や、全国の米軍基地への分散移駐、訓練の全国への移転などを国に対し強く求めてまいります。

普天間飛行場の閉鎖・返還、返還までの間の危険性除去と負担軽減を実現するためには、宜野湾市が一丸となって意思表示することが重要です。市民の皆様や各種団体と連携した「チーム宜野湾」で取り組み、基地のない平和を実現してまいりましょう。

これは普天間飛行場だけでなく、キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区についても同様です。返還期日の早期確定を国に求めるとともに、地権者の意向を踏まえた跡地利用計画の策定に向け引き続き、取り組んでまいります。

最後に「夢のある明日がいちばん」でございます。

普天間飛行場跡地につきましては、先ほども申し上げたとおり
沖縄振興はもとより、日本経済をけん引する可能性を秘めており
ます。沖縄県経済団体会議をはじめとした沖縄の経済界の各団
体、那覇市、浦添市と一緒に「^{ゲートウェイニセンゴジュウ} G W 2 0 5 0 ^{プロジェクト} PROJECTS」を推
進し、基地返還跡地の一体的な利用と那覇空港の機能強化を図
り、真に日本をけん引し、次代の沖縄の進化を象徴する「世界に
開かれたゲートウェイ」とするための検討を進めてまいります。ま
た、公共用地の先行取得を進めるとともに、世界に誇れる沖縄を
象徴する跡地利用のため、跡地利用計画の策定に向け取り組み
ます。

西海岸地域については、現在、建設中の8千人規模の屋外劇
場の機能も踏まえながら、宜野湾海浜公園、沖縄コンベンション
センター、宜野湾港マリーナなどを一体としてとらえた都市型観光
拠点化を推進します。

また、西海岸地域と隣接する大山地区については、区画整理
事業への地権者等の意見を踏まえたまちづくりを積極的に推進し
ます。

モノレールの延伸及び新交通システムの導入に取り組みます。

男女共同のまちづくりを目指し、女性の社会進出を推進し、誰もが自分らしく暮らし続けられるまちづくりを実践します。

男性の育児休暇・休業取得率の向上のため、関係機関の意見を伺いながら実効的な取組みを検討するとともに、市役所内の環境整備にも取り組みます。

近年、人気が高まっている「eスポーツ」の普及に取り組みます。

以上、今後4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方と、取り組む姿勢について所信の一端を申し述べました。

ただいま申し上げたことのほとんどは、松川前市長が市民の皆様とお約束してきた政策でございます。私は松川前市長の想いを受け継ぎ、これらの政策を前に向かって進め、「宜野湾がいちばん！」だと実感していただけるよう、市政運営に全力で取り組んでまいります。

今後とも、議員各位並びに市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、市長就任にあたっての所信表明いたします。

令和6年 10 月 1 日

宜野湾市長 佐喜眞 淳